福島県南会津郡只見町立只見中学校（ユネスコスクール）の SDGsへの取組

Think globally, act locally!

①新聞紙レジ袋の作成

本校では、ユネスコエコパークにあるユネスコスクールとして ESD・海洋教育に力を入れてきた。

令和元年、当時の中学2年生（現・高校2年生）が新潟県上越市で海岸のゴミ拾いや魚釣り体験を行った際、海洋ゴミの多さに衝撃を受け、「川で海につながっている上流域の只見町からプラスチックゴミをなくそう」と考え、新聞紙によるレジ袋作成に至った。レジ袋有料化の前に、全校生で取り組んでおり、地元の新聞社やテレビ局等で取り取り上げられ、学校ホームページでも発信することで反響を呼んだ。生徒が袋を扱っていただく事業所を開拓し協賛事業所は8事業所となっている。新聞紙レジ袋作りから始まった活動は、以下、様々な実践へとつながっている。

〇SDGs委員会が中心となって昼休みに作成

〇現・1年生（第5世代）へ　新入生歓迎・新聞紙レジ袋教室

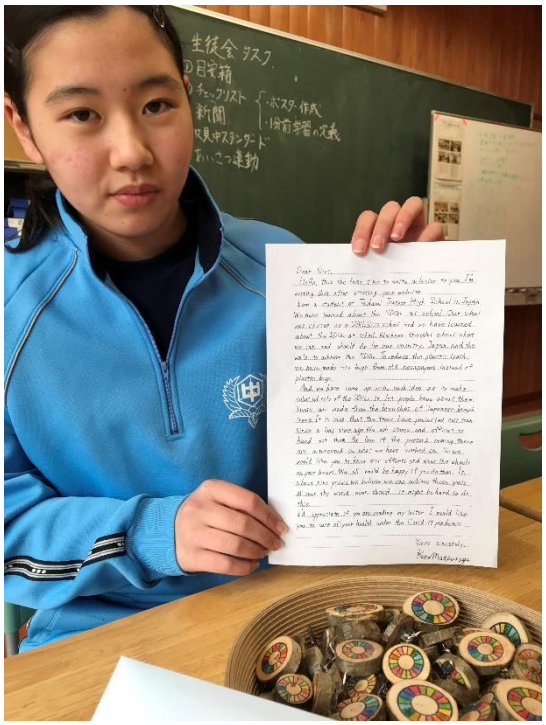
〇地域の方への新聞紙レジ袋教室（年に3回程度）

〇TV番組や他校との交流学習でオンライン教室開催

②只見町産のブナ材を使ったSDGsバッジ作成とSDGsへの協力依頼

SDGsに取り組んでいるシンボルとして「SDGs カラーホイール」を作成。より多くの人にSDGsを知ってもらいたいという願いを込めて、協賛事業所などで配付している。

○国連に只見中の活動についてバッジとともに令和3年2月に報告すると、9月に国連事務総長から返信が届いた。



国連から感謝の返信

只見中のSDGs活動に

SDGs（持続可能な開発目標）の学習を進める只見町の只見中は、新聞紙で製作する「紙レジ袋」などが同校の取り組みを紹介する英語の手紙などを米ニューヨークの国連本部に送った。今月6日、国連広報センターチームから感謝の手紙が届き、生徒たちが環境保護の推進に向けて気持ちを新たにした。

英語で書いた手紙は、同校3年の松本佳菜さん（15）が数週間かけて作成。SDGsに関する学習の成果をはじめ、環境保護などに対する思いをつづった。同校英語教諭の池上禎一さん（65）が英文を添削し、3月に同町のブナの木で作ったSDGsバッジと一緒に手紙を送ったという。

国連広報センターチームからは感謝の手紙の送付、アントニオ・グテレス事務総長の直筆サインの入った肖像写真が送られてきた。手紙に目を通した松本さんは「まさかの返信に驚いている。自分たちで拾い、町内の商店や薬局などに設置されている。池上さんは「活動を継続することが大切。さまざまな活動を通じて子どもたちには世界へ目をSDGsバッジの製作に取り組んでほしい」と話した。

紙レジ袋や木製バッジ製作

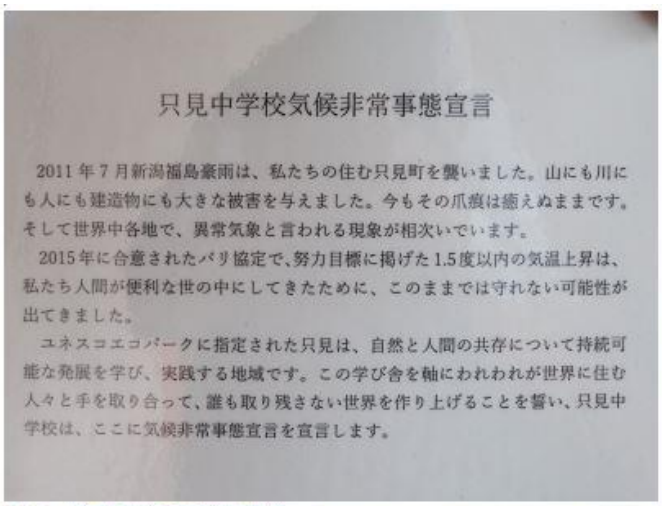
国連広報センターチームからの手紙などを手に記念撮影を見せる松本さん（右）と池上さん

③コキアを使った「ゼロ・カーボン・ほうき」の作成

〇令和3年　夏休みに SDGs委員会が種から育てたコキアの苗を持ち帰り家庭で育てて学校に持ち寄る。さらに、校舎の裏山にあるアカソという植物から紐を編んで作り、コキアを束ねたほうきを作った。掃除で使っているが、各家庭でも利用してもらう。

④生徒会による「只見中学校気候非常事態宣言」とペットボトル削減への具体的な取組

〇令和3年10月23日 「只見中気候非常事態宣言」を発表。そして、具体的な活動として「ペット・フリー・マンデー」（月曜日はみんなでペットボトル飲料を飲まないようにする）の実践も加わった。

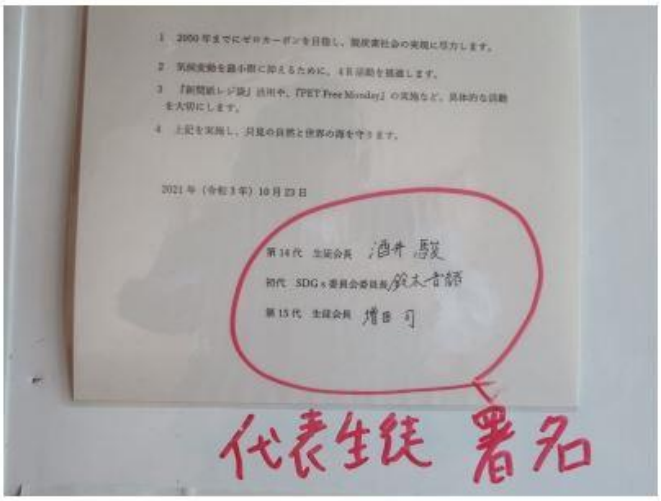


只見中学校気候非常事態宣言

2011年7月新潟福島豪雨は、私たちの住む只見町を襲いました。山にも川にも人にも建造物にも大きな被害を与えました。今もその爪痕は癒えぬままです。そして世界中各地で、異常気象と言われる現象が相次いでいます。

2015年に合意されたパリ協定で、努力目標に掲げた1.5度以内の気温上昇は、私たち人間が便利な世の中にしてきたために、このままでは守れない可能性が出てきました。

ユネスコエコパークに指定された只見は、自然と人間の共存について持続可能な発展を学び、実践する地域です。この学び舎を軸にわれわれが世界に住む人々と手を取り合って、誰も取り残さない世界を作り上げることを誓い、只見中学校は、ここに気候非常事態宣言を宣言します。



〇生徒がオリジナルキャラクター「らっくん」をデザイン。SDGs委員会で話し合い、各家庭でペットボトルが入っていることが

予想される冷蔵庫に貼ってもらうマグネットを考えた。先生や各家庭に配付（令和４年６月）して、協力を呼びかけている。

気候非常事態を宣言

只見中 持続可能社会へ実践

只見中は二十三日、持続可能な社会の実現に向けて新聞紙レジ袋の活用などを推進することなどを盛り込んだ「只見中気候非常事態宣言」を出した。

同校の文化祭「紅葉祭」の中で、第十四代生徒会長の酒井駿さん（三年）と初代SDGs委員会委員長の鈴木育穂さん（三年）、第十五代生徒会長の増田司さん（二年）が宣言を読み上げた。

宣言では、二〇一一（平成二十三）年七月に新潟・福島豪雨が只見町を襲ったことなどに触れた上で、世界中で異常気象とされる現象が相次いでいることを紹介した。ユネスコエコパークの只見町にある中学校として持続可能な発展を学び、実践すると誓っている。

今後、同校では生徒会が中心となって気候変動を最小限に抑えるための4R活動推進のほか、新聞紙レジ袋の活用、ペットボトル飲料を毎週月曜日に利用しない「ペット・フリー・マンデー」の実施などに取り組む。

気候非常事態宣言をする酒井さん（右）ら

Leave No One Behind!

《2022.9.24～25　ふくしま SDGs博　只見中ブースにて内堀県知事と》

令和 4 年度、只見中は総合的な学習の時間を核とした教科等横断的な学び、SDGsへ向けた ESD「只見学」を推進しています。

ふるさと・只見を愛し、関わり、繋がる。そして、その経験から将来、何らかの形でふるさとに恩返しできる生き方、家族や地域、人生で出会う多くの人を喜ばせる生き方、持続続可能な社会づくりに貢献できる生き方に、つながってほしいと願い、私たち教職員一同、今後も生徒達の活動を見守り、伴走していきたいと思います。